

**払いきれないほど高い国保税
一般会計からの繰り入れで引き下げを**

久野議員

(1) 国保税について

高すぎる国保税の支払いと滞納者への保険証の取り上げで市民は苦しんでいる。保険税を引き下げのため、長崎県以外の九州各県では、55%、166の自治体が一般会計から繰り入れている。また、16%、48の自治体は1人あたり1万円以上の繰り入れである。長崎県内でも5つの自治体で繰り入れを実施している。大村市でも一般会計から繰り入れ、国保税を引き下げよ。

(2) ① 不況で苦しむ建設業について

建設業で働く市民は仕事が少ない、未曾有の苦境にある。全国の21都道府県118自治体では市民向けのリフォーム補助金を交付しており、10倍、20倍の経済効果を生み、大工・左官、電気工事の職人さんを応援するとともに市の税収を増やしている。リフォームに対する補助金制度の新設はどうか。

② 市内建設業者の育成・発展にどう取り組んでいるか。

福祉保健部長(1) 国民健康保険には、収入が少ない方や安定しない方たちが数多く加入されており、その運営については国保税だけではなく、国・県・市からの補てんなどを行っている。歳入に占める割合は、平成21年度の決算見込みで国保税21・9%、国28・7%、県4・3%、市5・3%、退職者医療への被用者保険からの補てん5・9%、その他の交付金等33・

都市整備部長(2) ① 耐震改修、介護支援、省エネなどの特定の目的を持たない住宅リフォームに対する助成は、一般的には個人資産の形成につながる

9%となっている。一般会計からの補てんを増やすことは、国保の加入者の二重の負担、また受益のない国保以外の方たちの負担ということになる。税の公平感が損なわれることになるので考えていない。

という観点から難しいと考えている。

市長(2) ① 個人の財産になるという意見もあると思うが、実際に取り組んでいる自治体もあることから、先進地を研究しながら、私自身は取り組みむべき課題であると思っている。特に、建設業などの仕事の確保のほか、リフォームによって生活改善にもつながる。いろんな角度から前向きに捉えている。ぜひ積極的に取り組めるようにしていきたい。

市長(2) ② 特に地域の建設業に対して、あらゆる手当てを考え、積極的に取り組んできている。具体的には、前年度比1・6倍の額の入札発注、地元業者を最優先した発注、受注機会を増やす分離発注、大型工事における地元業者で構成した共同企業体への発注、最低制限基本価格を予定価格の90%に設定、中間前払い金制度の導入などである。今後とも全力を尽くしていきたい。

(その他の質問事項)

- ・乳幼児医療費の現物支給
- ・長崎空港A滑走路の管理

**とまと児童クラブとプチとまとの施設建設を
花いっぱいあふれる大村をめざして**

永尾議員

(1) 福祉保健行政について

現在、とまと児童クラブは大村幼稚園の空き教室を借りて運営されているが、施設全体の老朽化が著しく、排水設備の不具合が頻繁に発生するなど、衛生面について大きな支障をきたしている。また、プチとまとは、民間の空き店舗を借りて運営されているが、コンクリートの床に畳を敷いて保育スペースを確保しているため、夏は熱く、冬は底冷えが厳しい環境であることから、子どもたちの健康管理に大きな不安がある。また、施設の前は自動車の往来が激しく、子どもたちが交通事

(2) 都市整備行政について

市制70周年に向けて、住民力向上の機運を高めるためにも、空の玄関口で車の往来も多い森園公園のサンセット通りに面する場所に、行政と住民の協働による花と緑であふれるコミュニティガーデンづくりができないかお尋ねしたい。

故に巻き込まれる危険性に直面している。安心・安全な施設運営とともに小学校と連携した放課後教育を実現していただくためにも、給食センター跡地等小学校敷地内に新しい施設を建設できないかお尋ねしたい。

市長(1) 学童保育について

は、力を入れてきたが、それは議会の理解や保護者の皆さん方の熱意の結果である。親が安心して働くことができ、子どもがよい環境の中で遊び、遊ぶことは非常に大切なことである。とまとクラブ、プチとまとは、現在の施設では児童の安全

面、衛生面等々で多くの問題を抱えており、現状と課題は十分に承知している。何とか早急に新たな施設を建設してほしいという要望をずっといただいております、新しい施設の建設は、長年にわたる保護者の皆様方の願いでもある。そういったことから、今回の要望の内容

副市長(2)

春から今の時期にかけて、大村は非常に花がきれいだと思います。桜、シヤクナゲ、ハナシヨウブに限らず、いろんな花があり、民家の庭にも非常にきれいに花が咲いている。これもいろんなグループの方々や個人が一生懸命になって花を植え、育てていらっしゃる努力のたまものだと思います。市では現在、花のまち大村をテーマとして次世代研究グループによる研究を行っており、また、市制70周年においてテーマの一つとして花を取り上げようと思っております。その中で、場所の問題や市民と行政との協働システムなども含めて検討していきたい。